

《女川原子力発電所の運営に関する女川町長からの確認事項への回答について》

10月29日、当社は、須田女川町長からいただいた当社への確認事項*について回答しました。

具体的には、樋口社長から「安全に対する誓い」と「これからも地域とともに歩む」という決意をお伝えするとともに、増子副社長から「事業運営への取組姿勢・経営品質等の考え方」について説明しました。

当社からの説明に対し、須田町長からは「地域との信頼関係があってこそ安全文化の基盤が成り立つ。そのためにはコミュニケーションが重要」「これまでの歴史的経緯を振り返ったうえで地域との信頼関係構築にしっかりと取り組んでいくという強い思いを感じた」「組織は人で成り立つ。社員や協力企業社員、地域の人々など人を大事にすることで組織文化をつくり上げてほしい」との感想や意見をいただきました。

当社といたしましては、安全性向上・業務品質向上や地域の皆さまとのコミュニケーションの取り組みについて、ゴールはないとの考えのもと、常に高みを目指し、地域の皆さまから信頼され、安心できる発電所となるよう、今後も継続して改善してまいります。

※須田町長が、女川原子力発電所2号機の再稼働の判断要素の一つとして掲げる「東北電力の今後の事業運営への取組姿勢や経営品質等の考え方」を確認するため、9月25日に、当社の「安全文化・安全思想、コミュニケーション等」に関して申し入れがあったもの。



須田町長へ回答書を手渡す様子



感想や意見を述べる須田町長



回答書の内容を説明する様子

《令和2年度女川原子力発電所防災訓練を実施しました》

10月23日、当発電所は、仙台市の本店や宮城支店、東京支社などと連携し、「令和2年度女川原子力発電所防災訓練」を実施しました。

今回の訓練は、宮城県中部を震源とした地震が発生した後、運転中の2号機における「原子炉を冷却する注水機能の喪失」、その後の進展により「格納容器内の圧力を下げるための気体の外部放出」、その他、停止中の3号機における「使用済燃料プールからの水の漏えい」や廃止措置中の1号機における「放射性物質による汚染傷病者の発生」などの事象が次々に発生する想定で行いました。

訓練を通じて、複数の事象が重なった場合においても、設備の機能維持に向けた対応が適切に実施できること、社内の情報共有や社外への情報発信が速やかにできることを確認しました。

なお、訓練中は、新型コロナウイルス感染防止の観点からフェイスシールドやマスクを着用しました。



迅速・的確に指示・情報伝達を行う発電所対策本部

《女川原子力PRセンター収穫体験イベントを開催しました》

10月24日、25日の両日、女川原子力PRセンターにおいて、敷地内にある果樹園「スイートガーデン」で育ったりんごや大根、さつまいもの収穫体験イベントを開催しました。

このイベントは、地域の皆さまへ日頃の感謝と御礼の気持ちを込め、1993年から開催しているもので、今年は新型コロナウイルス感染防止の観点から、開催時間を分散させるなどの工夫により、3密を回避しながら実施しました。

イベントには、両日あわせて600名を超える地域の皆さまにご来場いただき、「親子で楽しむことができ思い出になった」といった感想が寄せられるなど、収穫体験を楽しんでいただきました。

女川原子力PRセンターでは、新型コロナウイルス感染防止に留意しながら、今後も、地域の皆さまに楽しんでいただける魅力あるイベントを開催してまいります。



りんごや大根などの収穫を楽しむ子どもたち

《「第9回東北電力杯女川・牡鹿親睦交流グラウンド・ゴルフ大会」が開催されました》

10月7日、「第9回東北電力杯女川・牡鹿親睦交流グラウンド・ゴルフ大会」(主催:女川町グラウンド・ゴルフ協会、協賛:東北電力(株)女川原子力発電所)が、女川町総合運動場において開催されました。

当日は63名の方々が参加し、秋晴れの下、心地よい汗を流しながら日頃の練習の成果を精一杯発揮しました。



笑顔でプレーを楽しむ皆さん



～グラウンド・ゴルフとは～

専用の木製クラブ、ボール、ホールポストなどを使用して、ゴルフのようにボールをクラブで打ち、ホールポストにホールインするまでの打数を数えます。

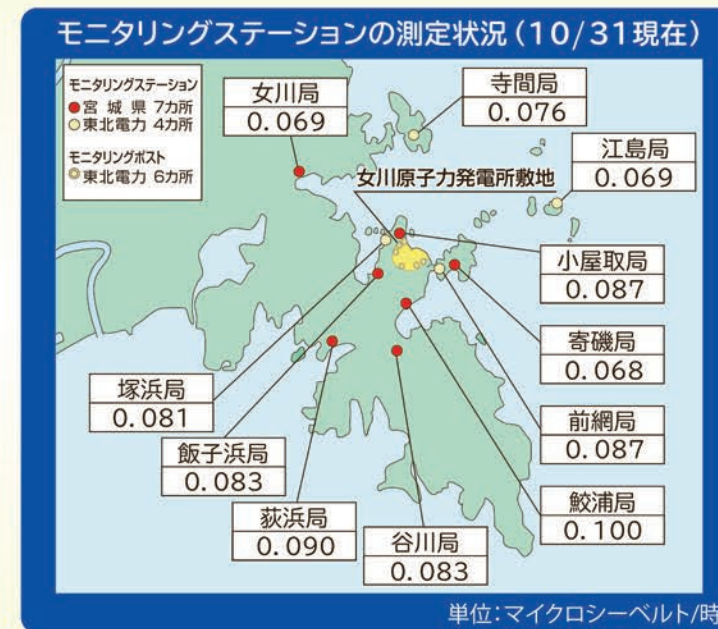
場所によって距離やホールポストの数を自由に設定でき、ルールも簡単なため、どこでも、だれでも手軽に楽しむことができます。また、ホールインワンを1回達成するごとに総スコアから3打マイナスするという特典が設けられており、プレイヤーの励みと意欲を高める工夫がなされています。



《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの2020年10月31日の測定値は、最大で0.047マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考)モニタリングポストの最小値と最大値※3

《東北地方太平洋沖地震発生日》	
2011年3月11日	0.027~0.064
《地震発生後最大値》	
2011年3月13日	1.8~21※4
《地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値》	
2012年4月1日	0.063~0.098
2013年4月1日	0.055~0.076
2019年4月1日	0.036~0.051
2020年4月1日	0.034~0.055
2020年10月1日	0.034~0.045
2020年10月31日	0.034~0.047

単位:マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02~0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。